



四門出遊

(パキスタン・ガンダーラ) 2～3世紀 『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展』より

釈尊(お釈迦様)は、カピラ城を首都とするシヤカ国の王子として何不自由なく育てられ、学問・武芸に秀でた才能を持つ後継者として順調に青年期を過ごしていました。ある時、従者チャナナの引く愛馬カントカに乗り城外へ出かけました。すると前方に、髪が白く歯がぬけ、シワだらけの顔をし腰が曲がり杖をつく人を見て「あれはいかなる人間か」と尋ねます。「あれは老人です。人は長く生きるとあのような姿になるのです」と聞き、驚きすぐに城へ戻り思い悩みました。「私も老いという性質をもつものだ」と。また別の日は路上で苦しむ病人に、さらにまた火葬へ向かう死人に出会い、自分自身も病み死にゆくものと知り、思い悩む日々を送っていました。そんなある日、王子は穩かで落ち着き清らかな姿の沙門に出遇います。「真の幸せとは一体何か。私もあの方のように老病死を生き抜く智慧を求め、出家し修行に励みたい。」

図の右側馬に乗っているのが王子。左側に杖をつく老人と、座りこむ病人がみえます。

題字：小山実千代 (伯東寺坊守)



圓徳寺巡番報恩講 平成二十四年度御笠組巡番報恩講法要に想う

圓徳寺門徒

笠 徹也(釋諦観)

平成二十四年十月二十七・二十八日、圓徳寺にて御笠組巡番報恩講法要がお勤めになりました。

三年前より新旧役員、世話人、仏教婦人会で実行委員会を作り準備を始めました。皆さん初めての事で戸惑いましたが、総代会長がリーダーシップを発揮し皆を引っ張ってくれました。また各委員さんも気持ちよく協力して頂き当日を迎えました。

何より心配したのは天候でした。昨年一昨年と続いて雨だったので稚児行列が心配でした。二十八日の朝までぐずつき



気味の空模様でしたが、行列の出発する頃には秋晴れの良い天気になり胸を撫で下ろしました。稚児宿から仏旗を持つて先導しながら、み仏の教えに遭遇うご縁を頂いたことに慶びを感じました。

参加した子どもたちも、この日のことを大人になって思い出してくれるかな、たとえ一日でも仏縁に遇ったのは幸せなことです。又いつの日かお寺に足を運んでくれることを、切に願っております。

ご法話の講師には圓徳寺住職の恩師の高田慈昭師においでいただき、大阪弁で軽妙でユーモアあるご法話をご聴聞致しました。

最後に不勉強な私共を熱心にご指導いただきました御法中様に心よりお礼申し上げます。

なお、不慣れで行き届かなかったことをお詫び申し上げ、十八年後に巡り来るこのご縁を、若い人達に受け継いで頂けたら幸いです。

皆様、有難うございました。

台掌



名掌礼拝の生活

お仏壇の **ツガ**

太宰府店 (駐車場完備)

太宰府市都府楼南1丁目1-32 ☎(092)923-8080

積善社 **筑紫斎場**

太宰府市吉松4丁目6-1 (青葉台入口信号角)

☎0120-14-0789 (フリーダイヤル)



「永代経法要」とは？

願応寺住職 中川 清昭

私たちのお寺では、「報恩講法要」とならんで大切な法要の一つとして「永代経法要」がお勤めされます。御笠組の各寺院では、四月から五月にかけてお勤めされるようですが、全国的に見ると、お勤めされる時期に決まりはないようです。寺院によっては、春と秋など年に二回以上お勤めされることもあるようです。

さて、この「永代経法要」について、ご門徒の方から「永代経」とはどのようなお経ですか、と訪ねられることがあります。実は、「永代経」とはお経の名前ではありません。

そこで、「お経(経典)とは何か」から考えてみましょう。仏教を開かれたのは、お釈迦様ですが、お釈迦様は、ご自身のおさとの内容を聞く人の能力に応じて、お説法すなわち言葉で伝えられました。また、悩める人々にも、その悩みに応じて言葉で解決されました。従って、そのお説法は、膨大な数にのぼります。そのお説法を聞いたお弟子様方が、その言葉通りに人々に言い伝えることによって、仏教は広がって行きました。お釈迦様がご在世の間は、言葉が曖昧になったり、意味が分からないときは直接お釈迦様に尋ねることができました。しかし、入滅された後は、確認することが出来ません。このままではお釈迦様のお説法が消えてしまう、と憂慮されたお弟子様方が集まり、お説法を後世に正しく伝えるために、文字として残すことを考えられました。お釈迦様ご一代のお説法が、後のお弟子様方の努力によって文字になり、現代まで伝わってきたのが「お経(経典)」なのです。先述の通り、お説法の数膨大ですから、当然「お経」の数も膨大になり、「八万四千の法蔵」(『御文章』)ともいわれます。その膨大な中から、親鸞聖人は、「浄土三部経」を選ばれ、浄土真宗の中心のお経とされました。

さて、仏教は、インドで興り、中国を経て日本まで伝わってきました。その間には、幾多の人びとの血のにじむような努力があったことを忘れてはなりません。

中国からインドまで険しい山々を乗り越え、お経を学び、持ち帰り、翻訳という大仕事をなさった人びとがありました。あるいは、嵐の海を渡り、中国と日本を往復し、日本までお経を伝えて下さった方々もありました。途中、様々な理由で力尽き亡くなられた方々も少ない数ではなかったことでしょう。日本においては、仏教に対する弾圧もあるなか、命がけでお経を守り続けて下さった方々もありました。日頃何気なく頂いている「お経」には、このような先達のお力、歴史があったのです。

「永代経法要」とは、先達の血のにじむようなご尽力に感謝し、しっかりと「お経」を受け継ぐことを願いとした法要です。さらに大切なことは、自分の責任において、次の世代に「お経」を確実に伝えていくことを阿弥陀さまにお誓いすることです。

草^[SOUEN]苑

美しが丘 TEL 092-919-0880 FAX 092-919-0881
草 苑 筑紫野市美しが丘北3丁目12-4



御墓石・記念碑・造園・石材加工・その他石工事
設 計 ・ 施 工
石のことなら気軽に御相談下さい。

(有)矢ヶ部石材

代表取締役 矢ヶ部 清隆

筑紫野市大字本道寺106-4 ☎ 924-5574
(FAX) 924-8212

福岡教区の東日本大震災現地ボランティア活動に参加

西蓮寺 門徒推進員 入江一孝(釋現教)



名取地図日和山

福岡教区の重点プロジェクト実践目標「災害支援：東日本大震災をはじめとする被災者への支援」を、門徒推進員として、街頭募金を行い、また現地へ訪れボランティア活動に参加させて頂きました。

二〇一二(平成24)年九月十三日に天神パルク横で街頭募金(義援金・支援金)を行い、三十名近くの僧侶、門徒が通行人に趣旨を伝え協力をお願いいたしました。

二〇一二(平成24)年十一月二十日から二十二日までの現地ボランティア活動では、一日目(20日)は、津波被災地を訪れ被災者との傾聴ボランティアを行い、生徒児童が亡くなられた閑上^{ウツギカミ}中学校にて参加者全員で読経させていただきました。二日目(21日)は、本願寺仙台別院東北教区災害ボランティアセンターにて18名(福岡教区参加者)が三班に別れ現地の津波復興支援センターを訪れ、農地復旧復興支援及び、写真洗浄整理をさせて頂きました。活動内容は、塩害にあった畑の瓦礫取り出し、畑の掘り起し、大工作業、被災写真の泥落とし、洗浄等でした。私は仙台市若林地区での農地復旧作業で、若林地区は海





関上中学校



岸線より2kmくらいの場所にあり、津波被害を受けた畑の瓦礫取り出し、畑の掘り起しを行い、住民が帰ってきてからすぐに農作業が出来るように支援作業を行いました。三日目(22日)は、経済復興の一助になるよう被災地の石巻、女川を訪ね、仮設の物品販売店を廻りました。被災地で商品購入をすることにより、被災された方々への直接の経済支援につながること、様々な地産品を買い求めました。

今回の参加で、被災地は今も瓦礫が片付いただけで、復興にはまだ程遠く、津波被災で家族を亡くされた方々の悲しみに寄り添い、思いを分かち合うことはもちろん、復興支援を如何に継続していくことが必要であるかと考えさせられました。



ボランティア活動風景



子ども本山参拝 一泊研修会

初体験

六年 黒田 幸奈

七月二十六日、京都の西本願寺に行きました。私自身、世界文化遺産というよ
うな日本のすばらしい所に行くのは初めてでした。

国宝の対面所(鴻の間)は、柱と柱の間の長さがちがう不思議な部屋でした。す
ずめの間は、本当の数より二羽少なかったです。かかれ
たすずめが本物のようだった
ので、鳥になり飛んでいっ
たという説があるそうです。
私はその事を聞いた時、半
信半疑でしたが、しだいに本
当かもという気持ちの方が
大きくなってきました。中
庭は葉っぱでできた鶴と亀
がありました。

食前の言葉と食後の言葉を
言う事によって食への感
謝・思いも強まりました。
私達人間は食べ物を食べら

れるという事に感謝をもた
なければいけないという事
を学びました。仏教の事を
まだまだ学び、色々知りたい
と思いました。

六年 田中 唯奈

私は一ぱく二日の旅行で
USJに行きました。US
Jは、班行動でした。まず最
初に乗ったのは『スパイダー
マン・ザ・ライド』を乗りま
した。スパイダーマンには3
Dなのでこわかったです。次に
『バックトゥーザフュー
チャー』です。これもこわかつ
たです。次は『宇宙』をテー
マにした乗り物です。班のお
姉ちゃんを楽しんでいたた
けど実際こわかったです。で
もこわかったけど二回乗り
ました。最後は『ジョーズ』で
す。面白かったです。USJ
はこわかったけど楽しかった
です。

六年 高野 恵理佳

私は一ぱく二日の旅行で
本願寺に行きました。朝五
時におこされました。私は
ねむたかったです。そして本
願寺に五時四十五分ごろに
つきました。六時に本願寺
で、おきようを読みました。
一時間せいざをしたことがな
かったので足がしびれて立
てなかつたです。そして本願
寺の中を見学しました。ふ
だん見れない所も見学しま
した。豊臣秀吉の別荘を見
ました。大きかったです。本
願寺の見学が終わって願応
寺のみんなで写真をとしま
した。楽しかったです。いい体
験ができました。



・ご飯
・味噌汁
・煮物(7種)
・酢の物
・漬け物

おしながき

来光寺お齋



お盆を除き、毎月の
法座でお齋を出してい
ます。地区担当の方々
が中心になって季節の
野菜を使って作って下
さっています。お齋の
時間は和気あいあいと
おしゃべりをするのが
皆さんの楽しみになっ
ています。

大規模葬から家族葬まで…
もしもの時に安心な…互助会会員募集中

(株)のがみ 善光会館 筑紫会場

筑紫野市杉塚6丁目11-1 Tel 921-4242(代)

おてての しわとしわを あわせて しあわせ なーむー



お仏壇・墓石
はせがわ

霊園・墓所・墓石のご相談も承ります。

太宰府インター店

太宰府インター
グッディそば

☎092-503-0800



子ども報恩講

御笠組青少年育成部部長
慶伝寺若院 久保龍道

今回の子ども報恩講は、二月二十六日に筑紫野市平等寺の光伝寺で行いました。天候もよく、多くの子どもたちに参加していただきました。

光伝寺の御門徒の方々に協力をしていただき、子どもたちと楽しく餅つきができました。

お勤めの後、法話の前に草場一壽さん著「いのちのまつり」という絵本を、プロジェクトでスクリーンに絵を映し出し、部員たちで朗読しました。いのちのつながりを教えてくれる内容になっており、自分のいのちも人のいのちも無数のいのちに生かされていたのだと気づかされる本です。

お寺に通うのは大人になってからでなく、子どものときからお寺の行事に参加しお念仏のみ教えに出遇っていただきたい。その機会を私たち青少年育成部は大事にしていきたいです。



法律相談

初回相談無料
毎週月曜日・金曜日
午前八時半～午後六時

※弁護士が相談に応じます
相談専用電話

(092)761-034

©プライバシーは必ず守られます。
問い合わせ 福岡教区教務所
☎(092) 761-034

ビハーラ・ライン・福岡

こころの電話



相談電話 **(092)711-1432**
毎週月曜日・金曜日 ※祝日は除く
午後1:00～午後4:30
プライバシーは守ります
(相談内容)

浄土真宗本願寺派社会福祉推進協議会福岡支部

漆

歴史と伝統の技で創る…仏壇・寺院用品

(株)福岡 仏 掌 堂

〒815-0075 福岡市南区長丘1丁目9-1 TEL(092)561-7070(代)
FAX(092)561-8463
〔工場・夢工房〕福岡県八女市室岡1299 TEL(0943)24-2110

JA筑紫

誠心誠意を大切にします。もしものとき…

24時間承っております

筑紫農業協同組合 (JA筑紫 共栄会 やすらぎ会館)

〒818-0057 福岡県筑紫野市二日市南2-1-3
TEL(092)924-3027/FAX(092)928-1394



組合員・NEW!にじの会 会員募集!!

本願力にあひぬれば……2

相続・争族・争続

明福寺門徒 八尋正喜(釋正蓮)

未曾有の災害をもたらした東日本大震災から早や二年になろうとしています。この大震災は、多くの生命と財産を奪うとともに、地震と津波による瓦礫の山が「目に見える恐怖」を与え、放射能漏出という「目に見えない恐怖」が襲い、我々に明日は何が起こるか分からないこの世の無常を再認識させた出来事でした。それ以来私は「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」という親鸞聖人の歌を思い、突然の死と隣り合わせにある「相続」について考えるようになりました。

特に今回の大震災のようには、両親、子、兄弟姉妹が一度に亡くなるケースでは、権利関係はさらに複雑化します。疎遠な方々が葬儀などの祭祀を継承し、復興ままたない状況のなかで相続問題を処理しなければならぬからです。場合によっては遠縁ゆえその煩わしさに相続を放棄した方や、いまだ遺体が見つからず、ただつらい現実を受け入れている方もおられるでしょう。

さて、最近よく「相続」において「争族」を生み、「争続」になると言われる原因はどこにあるのでしょうか。様々な理由が考えられますが、戦後の自由平等主義により相続人の権利意識が高まったこと、親子、兄弟姉妹間のコミュニケーションの欠如、そして何より相手の立場を思いやる気持ちが希薄になった

もに生きる相手を思いやることができれば、相続人間における諍(いさか)いも少なくなるのではないかと思います。

最後に

「相田みつを」さんの言葉から……

『うばい合えば足らぬ

わけ合えばあまる

うばい合えば憎しみ

わけ合えば安らぎ』

編集後記

今回の48号では、東日本大震災について大きく掲載させて頂きました。

この震災によりたくさんの方々の苦しみ・痛み・悩みが日本中に発生した事、その苦しみや未だに解決するどころか目に見えない「私たち」で膨らんでいる様に、私は感じております。

つくづく今、自分にできる事が何なのかを、考えさせられます。

新組報2号目の発行となりましたが、前号とともに引き続きご意見ご感想をお待ちしております。

お仏壇の **すーかどう**

お仏壇・仏具のご相談はお電話を！

筑紫野市二日市中央通商店街
☎092-924-1111

～大切な人を送る時、私たちができること～

ご葬儀を真心込めてお手伝いします



CHIKUSHI

有限会社

筑紫葬祭

葬祭式場

セレモニー 筑紫

本社 / 〒818-0072 福岡県筑紫野市二日市中央3丁目2-21

TEL 092-925-4444(代)

セレモニー 筑紫 / 筑紫野市塔原東4丁目3-5 TEL 092-924-5177